

文化論	1年・後期	1単位	教授 中村 光一
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220141

1. 授業のねらい・概要

日本における様々な時代が培ってきた文化を概観することを通じて、鋭敏な国際感覚を持った看護職の養成の一助となることを目指す。もとより8回の講義の中で日本の「文化」を網羅的に述べることは困難であり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 学修の到達目標

1. ケアサービス提供者として、日本文化への理解を深める。
2. 培われた文化が人々にどのような影響を及ぼしたかを理解する。

3. 授業の進め方

各回の講義は、google classroom を利用した教材（動画）・課題の提示と、それに対するGメールによる課題提出の形式により行う。

4. 授業計画（講義）

1. 縄文と弥生	5. 火縄銃 — 技術の移入
2. 古墳	6. 能と歌舞伎 — 貴人と庶民の芸能
3. 神社と寺院 — 固有と外来	7. 浮世絵 — ジャポニスムへの影響
4. 大仏造立 — 8世紀の国家プロジェクト	8. 天ぷら・蕎麦・寿司 — 「和食」の成立

5. 成績評価の方法・基準

毎回の提出課題（80%）、定期試験週間に実施するまとめ課題（20%）。

6. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

8. 受講上の留意事項

毎回の講義を提示された期間内にきちんと受講するとともに、指示に基づき課題を期限内に提出するように心がけてほしい。また、スマートホン・タブレット・パソコンなど、講義受信・課題送信のためのツールのコンディションを万全な状態に維持しておくよう心がけてほしい。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題についての講評を google classroom のストリームにあげるなので、その内容を確認して次の課題作成の際の参考にしてほしい。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。